

後期高齢者になり車の免許証を3年前に返納した。ニュースで報道されているように、ブレーキとアクセルの踏み間違いは大惨事につながる。交通系ICカード「ICOCA」を使用し、座れるように一本遅らせて各駅停車に乗るように心がけている。急いで走り込むようなことはしない。

先日、電車の吊革を持って立っていると、外国人の青年が席を譲ってくれたので“Thank you”と言うと流暢な日本語で「ど

うぞ座ってください」と言われた。来日6年目ですと教えてくれた。優先座席も若い方は必ず立って席を空けてくれるように感じる。ほとんどの人はスマホを見ているが、読書する方も多く見られるようになっている。

ゴルフをプレイする時は、なるべく歩くように心がけている。芝生を踏み込み歩くと草の淡い香りが心の底まで染みとおる気がして心が躍り上がる。4人でラウンドをして様々な情報を取り入れることができる。異業種の



## 医界サロン

# 歩く

広報委員 大野 良興

方々とラウンドをして、現在の経済情報、社会情勢、人口動態などを聞き入れ、病気・介護・福祉などを医学的な言葉ではなく、社会に通じる易しい言葉で説明する。歩くことによってできる情報収集である。同世代で会話をすることで、日頃のストレスから解放される。ゴルフほど相手の性格が分かる競技はないだろう。

普段は、定刻時間になると病院の中を10階から地下1階まで歩いて巡回する。入院患者や職員と会話を交わすことで病院の経営状態が理解できるようになり、職員からの「本当に忙しいですが、明るくやりがいある仕事です」という言葉を聞くと、胸が詰まる喜びを感じるのだ。医療界は本当に厳しい経営状態が続いているが、一つずつ基本を大切にゆっくりと歩きながら、本当に患者のためになる医療とは何かを考え直すのである。

昭和、平成、令和と歩いてきて振り返ると

大きな出来事が続いた。特に、阪神・淡路大震災発生、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の恐怖など大きな災害が起こってきた。阪神・淡路大震災発生時に伴う救援活動では職員とともに神戸の町を歩いた。ほとんどのビルが倒壊し、その中で救援活動を行い歩いた記憶を忘れることができない。多くの人の話を聞き情報を集め、スマホなどで情報を発信するに当たり、誤った情報ではないか、確認をするためには、正確に調査し実際に歩くことが不可欠なのだ。

医療社会において、地域医療構想、働き方改革、診療報酬大改定などの難問題が山積みである。歩いてきた人生を振り返り、次の歩くべき方向をしっかりと見定める余裕が必要だ。人生の充電期間から将来を思いやり、人生を歩き、身体・心ともに良好な結果を得て、一歩ずつ一歩ずつ上を向いて歩いていこう。